

## 創価大学

産業界のニーズにこたえる就業力  
育成の取り組み創価大学  
経済学部  
教授

長谷部 秀孝

[2013年6月8日 福岡天神チクモクビル]

## 1. 文部科学省のGPへの取り組み

本学は学生数約8,000人の中規模大学です。建学の精神は、「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」「人類の平和を守るフォートレス(要塞)たれ」で、主に「人間教育」ということを標榜しています。私は経済学部なので人間主義経済学、創価大学の経済学部は人間主義であるということを頭に置きながら教育をしています。

本学の経済学部は、2007年度よりGPに採択されています。2007年度は「特色ある大学教育支援プログラム(以下特色GP)」に採択され、テーマは「グローバル化時代の経済学教育-英語で学ぶ経済学が未来を切り開く」です。2010年度は「大学生の就業力育成支援事業(以下就業力GP)」で、テーマは「学問・世界・仕事へのリンクが育む就業力-専門教育と就業力をつなげるカリキュラムならびに個別学習マップの構築」です。そして2012年度は「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(以下産業界ニーズGP)」に参加(14大学連携)し、テーマは「関東山梨地域大学連携による産業界等のニーズに対応した教育改善」という内容です。就業力GPについては、当初、経済学部だけの取り組みでしたが、現在は内容の一部を全学に展開し始めています。

まず、特色GPについてお話しします。経済学の授業を英語で行っています。この授業をメインにし、日本語での経済学の授業と関連づけて、相乗効果を生み出しています。海外研修プログラムも加えて学生の意欲を引き出すようにしました。

学生の学力差は大きく、大学の授業についてこれない学生もいますが、その学生も含めて全員一緒に卒業させようと考えて指導をしています。初年次教育・リメディアル教育を丁寧にやり、スチューデント・アシスタントをうまく使い、成績評価を公正で厳格に行うことで学生のやる気を喚起しました。FD活動を活発に行うことで教員自身も勉強をする機会が増えました。その結果、学生の意欲が高まり、学力がめきめき上がるという経験をしました。

このように特色GPによる教育課程の改革を始めましたが、まだ学生自身の将来に関してはまだ手をつけられていません。英語で経済学を学ぶことに魅力を感じたとしても、社会に出て本当に経済学が役立つのかという疑問は残ります。もちろん「役立つ」と我々が言うのですが、それでは説得力がありません。何らかの形で学生にもう一步進んだ力をつけさせる必要があります。

そこで次にキャリア教育の改革に着手しました。それが、就業力GPです。

就業力GPの取り組みは2年間で終わってしまったのですが、もう一步進めようとしています。学生に、経済学は役に立つということを感じさせよう、将来働くということを専門教育の中で見出させようとしてきました。そのためにキャリア教育と専門教育を連結させる授業を作ろうと試行錯誤しました。具体的な取り組みは、次の4点です。

## ①創価大学の「就業力」を定める

学生が社会で活躍するために必要な基礎的な力、つまりジェネリックスキルを身につける必要があります。創価大学として図表1にあるような就業力を決めました。それは経済産業省の社会人基礎力を土台にして作ったものです。リテラシーとコンピテンシーの両方が入っています。一番の特色は環境変化力というものなのですが、PROGテストでは測れないということでここには載せていません。これは、どのような状況でも負けない、自分で壁を崩していくブルドーザーのような力を備えてほしいという気持ちで設定したものです。

図表1 創価大学の就業力(ジェネリックスキル)一覧

論理的思考力	複眼的な視点から論理的に思考を展開する力	リテラシー
言語表現力	日本語及び外国語を用いて、正確な文章を書き、話す力	
数量的分析力	数量的・統計的データを正確に把握し、分析する力	
対人基礎力	目標に向けて他者と協力的に仕事を進める力	コミュニケーション
討議推進力	世界の多様性を理解し、建設的に議論を推進していく力	
自己育成力	自らの行動を律し、理想とする自己に近づけていく力	
議題設定力	客観的に情報を収集し本質的な課題を設定する力	
目標達成力	自らの計画や目標を、具体的に実現していく力	
創造的思考力	既成概念にとらわれず、独創的に考える力	

## ②就業力テストをつくる

これが今日お話しするメインの内容となります。これはPROGテストを、リアセックと一緒に本学が定めた就業力にあうようにカスタマイズしました。

## ③My Mapの導入(学生への指導体制整備)

就業力テスト(②)をやりっぱなしには意味がありません。このMy Mapは、学生の4年間の自分計画・地図です。地図を作るための材料がPROGだと位置付けました。

## ④「社会貢献と経済学」の授業を設置

これがキャリア教育と専門教育をつなぐものです。ここまで作った段階で就業力GPの期間が終わってしまいましたので、この「社会貢献と経済学」の授業を中心にして、2012年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(産業界ニーズGP)」に参加(14大学連携)することで、就業力GPの次の段階へとつなげました。

# 2. 就業力育成とその評価方法

次は就業力の測定についてお話しします。まず、テストの結果が、学生自身の適性を示すようなものでなければならない、そして示された適性を活かして進路を考える際の資料となるようなものでなければならないと考えました。そこでその趣旨に合うように、PROGテストをリアセックと一緒にカスタマイズですることになりました。できれば学生がどの方面に適性があるのかというものを測定したかったのですが、それはあきらめました。

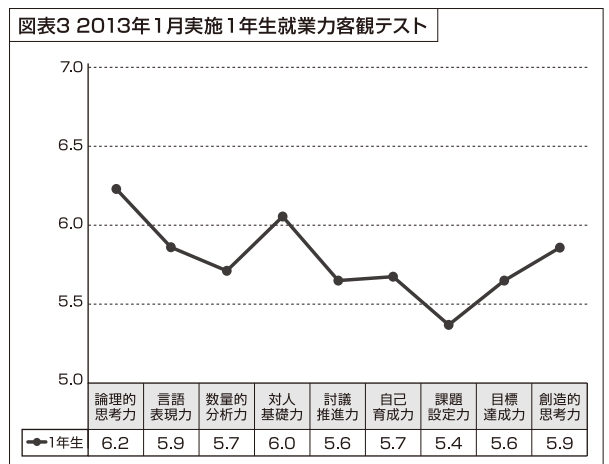
次に、学生が自分の能力を把握できるものにする、このようなテストを目指しました。学生は自身の能力を把握できていないために就職時に高望みをしたり、あるいは自分の能力を過小評価したりしてしまいがちです。しかし、PROGテストを利用することで自分の能力を把握することができるようになります。

分析項目を本学の就業力にぴったり合うよう調整していただき(図表2)、PROGテストを私たちは「就業力客観テスト」と呼ぶようにしました。

【創価大学の就業力】		【PROG】		
大学就業力	定義	中分類	内容/小分類	
1.論理的思考力	複眼的な視点から、論理的に思考を展開する力	課題発見力	問題の洗い出し・整理・分析・課題の設定	
			構想力	構想力・解決策の絞り込み・解決策の具体化
			言語分析力	言語的処理力
2.言語表現力	日本語及び外国語を用いて、正確な文章を書き、話す力	数量的分析力	数量的処理力	
3.数量的分析力	数量的・統計的データを正確に把握し分析する力	親和力	親しみ易さ	
			気配り	
4.対人基礎力	目標に向けて、他者と協力的に仕事を進める力	協働力	対人興味・共感・受容	
			多様性理解	
5.討議推進力	世界の多様性を理解し、建設的に議論を推進していく力	統率力	役割理解・連携行動	
			情報共有	
6.自己育成力	自らの行動を律し、理想とする自己に近づけていく力	感情抑制力	話し合う	
			意見を主張する	
7.課題設定力	客観的に情報を収集し、本質的な課題を設定する力	自信創出力	建設的・創造的討議	
			セルフアウェアネス	
8.目標達成力	自らの計画や目標を、具体的に実現していく力	行動持続力	ストレスコーピング	
			独自性理解	
9.創造的思考力	既存概念にとらわれず、独創的に考える力	課題発見力	自己効力感・楽観的思考	
			主体的行動	
		計画立案力	完遂	
			情報収集	
		実践力	本質理解	
			目標設定	
		実践力	シナリオ構築	
			行動を起こす	
			修正・調整	
			遵法性・社会性	
			創造力	

先ほども述べたように、「学生が自分の能力を把握する」ためには、手渡されるテストの結果が、自分自身で使いこなせるものでなくてはなりません。そこで「創価大学の就業力強化書」という冊子を作成し、結果とともに学生に配布しました。在学中の早い時期に自分の能力を把握して、能力を伸ばす努力をすれば結果に表れます。では何をすれば伸びるのか、ということを理解してもらうための指導書、それが「就業力強化書」です。詳しくは創価大学経済学部のホームページにアップしていますので、そちらからご覧ください。

全学の1年生を対象とした2013年1月の「就業力客観テスト」の実施状況ですが、受験率は95%でした。就職活動が終わった一部4年生も受けてもらいました。結果は図表3のようになっています。それを見ると課題設定力が弱いようです。



「就業力客観テスト」の利用のポイントですが、学生には個人の評価には使わない、と伝えています。あくまで学生自身が自分のジェネリックスキルの把握することを目的としています。そのために結果のフィードバックとMy Mapの作成を結びつけることに力を入れるようになっています。学生はテストの結果を受けて、先ほどお話しした「就業力強化書」を参考にしながら、弱点を補強するような方策を考えるのですがその際に教員によるアドバイスが重要になります。必要に応じて面談を行うことで、テストの効果を高める努力をしています。

しかし、「就業力客観テスト」は実施に90分程かかるので、頻繁に行うことは大変です。そこで同時に開発した「就業力主観テスト」を使用しています。これは20～30分で実施できるテストで、もちろん「就業力客観テスト」と対応関係があります。そこでこの「就業力主観テスト」を用いて、授業や取り組みの成果の評価を行っています。

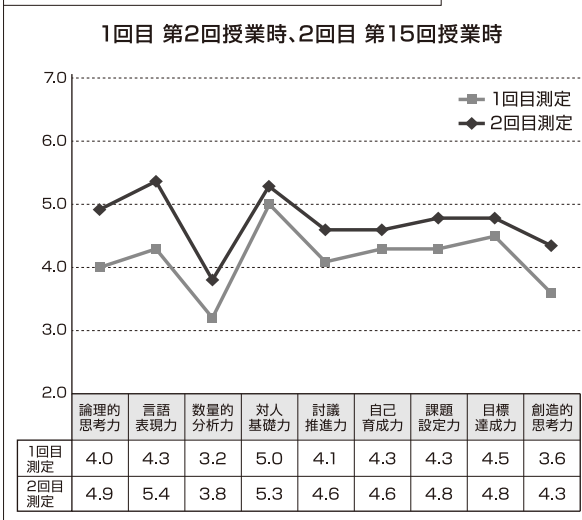
### 3. 社会貢献と経済学

「産業界のニーズに対応した人材を育成する」、「働くことと経済学を勉強する意義を結びつける」、「授業全般を通してジェネリックスキルの身に付ける」という目的で「社会貢献と経済学」という専門科目とキャリア教育を結びつける授業を設置しました。授業の目的が達成されたかどうかについては、「就業力主観テスト」で評価しています。

2012年度の授業内容ですが、テーマとして東日本大震災を取り上げました。第1部では、東北の被災地から講師を招き、被災地の現状と課題を学びました。第2部では、働くことと社会貢献の関係性を学びました。そして第3部では、OB・OGが実際に自身の仕事に関連した課題を出し、学生が経済学を用いて回答を考え、プレゼンテーションします。授業最終日には、産業界からゲストを招き「東北復興プランコンテスト」を実施する、という流れで授業を組み立てました。授業の初回と最終回にこの「就業力主観テスト」を実施して我々の目的が達成されているかどうかを評価しました。

テスト受験希望者は77名でした。創造的思考力は伸びたと思います(図表4)。ただし、学生の弱点である数量的分析力、つまり数学の力はこの授業では伸ばすことはできませんでした。これらの結果を元に資料に、2013年度の「社会貢献と経済学」の授業内容をどのようにしていくのかを検討しています。

図表4 「社会貢献と経済学」就業力主観テスト結果



## 4. 東北復興インターンシップ

「社会貢献と経済学」の授業において、座学で考える・講師の話聞く、ということだけでは課題を本当に捉えたことにならない、自分なりに考えるためには現地に行くしかないという考えから出てきたのが「東北復興インターンシップ」です。具体的には、従業員数が震災以前の3分の2になって人手不足になった宮城県のホテルでインターンシップをしています。

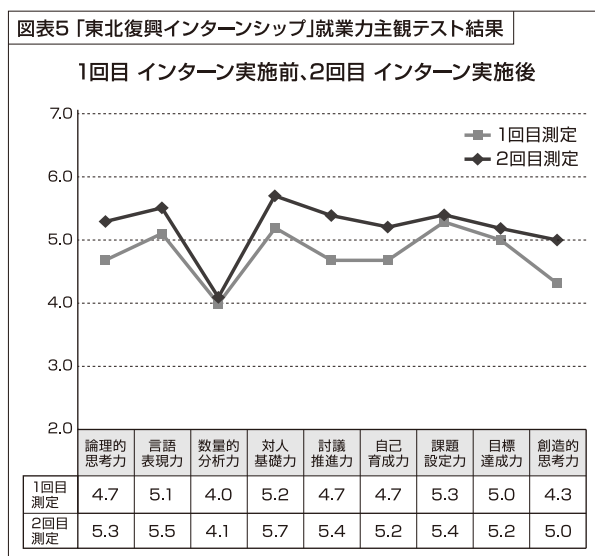
春休み2グループ・夏休み2グループ、年間4グループ、年間80名が参加(1グループ2週間)しました。事前事後研修も実施し、2単位を認定します。このインターンシップは普通の企業でのインターンシップと違う点が多々あります。ひとつは復興と関連付けていることです。被災地で企業を立ち上げた人や力を尽くしている人の話を聞き、自分の足で被災地を歩く。これらの経験から、自分からジェネリックスキルの身に付けようという気持ちが生まれ、その力が授業につながっています。

我々はカリキュラム・マップの中で、身に付けるべき力とそれを育てるための授業内容を整理し、それを学生が全て見るようにしています。

カリキュラム・マップを見れば、たとえば、自分は論理的思考力を身に付けたいという場合、どの科目・どの授業がふさわしいのかが分かります。専門科目についてそのようにしました。学生は経済学を学びながら、専門科目の中でジェネリックスキルの伸ばしていくことができる、というわけです。このような意識付けをするためにこの「社会貢献と経済学」という科目があり、「東北復興インターンシップ」があります。

次は、「東北復興インターンシップ」前後に行った「就業力主観テスト」の結果です(図表5)。課題設定力があま

り伸びていません。それから予想どおり数量的分析力も伸びていません。やはり、我々はこの結果を今後の授業設計の検討材料にして考えていかなければならないと考えています。



## 5. まとめ

以上のように、「就業力主観テスト」とPROGを基にした「就業力客観テスト」を目的によって使い分けて実施してきました。重要なのは、何のためにそのテストを使うかということだと思います。とにかく目的が大事で、実施すればよい、というものではありません。どの目的のためにどのテストを使うのか、学生へのフィードバックはどうするのか、我々がその後の授業設計に利用するのかどうか、このようなことを明確にしながら利用していけば、テストは就業力育成の強力な手段の一つになると考えます。